

実践報告資料

研究テーマ『相互に人権を尊重し合う社会の実現に向けて、自ら判断し行動できる生徒の育成をめざして』
 研究内容【(1) ② (3) ④】

学校名 (丹波篠山市立篠山東中学校)

ア 人権教育としてのねらい

ネット上のいじめをはじめとするいじめ問題の未然防止または解決に向けて、生徒会が主体となる活動、家庭への適切な情報提供による啓発、人権意識を土台とした道徳教育の充実により、自らの行動が他者の人権に与える影響について、確実に認識できる人権意識の向上を図り、自他の人権を尊重できる生徒の育成をめざす。

イ 研究の概要

いじめ問題の未然防止または解決に向けて、「いじめゼロ宣言」「情報機器取扱宣言」等のルール作りや毎年開催している「人権教室」の企画運営に生徒会がより主体的に取り組めるようにすることで、「自分たちの人権は自分たちで守る」という意識の向上を図る。また、兵庫県警等と連携し、ネットトラブルの加害者・被害者にならないための適切な情報を家庭に発信し、「未然防止の土台は家庭である」という意識づけを行う。さらに、毎週の道徳の授業のねらいに、必ず「人権教育の視点に立ったねらい」を盛り込み、日常的に人権の視点から物事を考える態度を養う。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	3年社会科担当	2年担任	全職員	県警サイバー犯罪対策課
実施日	9月17日	7月15日	7月6日	11月11日
取組名	誹謗中傷をなくす社会の取組から考える	責任ある行動について考えよう	いじめのない雰囲気をつくるには	ネットトラブル・犯罪についての親子学習会
目標	調べたことを交流することで、自他の人権を守る意識と態度を育む。	物事を自律的に実行して、その結果に責任をもとうとする実践意欲と態度を育てる。	人権と身近な人間関係の在り方を考え、話し合うことで意識と態度を育む。	若者が巻き込まれるネットトラブル・犯罪の現状を、身近な問題としてとらえる。
資料名	自作ワークシート	「許せないよね」(きみがいちばんひかるとき ② 光村図書)	生徒会自作写真パネル	リーフレット 感想用紙
指導内容や指導方法の工夫等	誹謗・中傷を防ぐために企業等が開発中のアプリや大学等が行っている社会実験について、各自がChromebookで調べる。 調べた取組の意義・課題を調べる。 調べた内容を他者と交流し、意見・感想を記録する。 最終的な自分の意見・感想を記入する。	〔個人思考〕→〔グループ思考〕→〔全体共有〕の流れで進める際に、個人の意見や考えを持つ時間(場面)を確保し、ペアやグループ学習のタイミングや人数の適正化を図り、考えを深める。 発問に対して、登場人物の行動だけでなく、理由も問い返しながら意見を出させる。全体にも共有し、深めさせる。	生徒会役員の「気になる日常の風景を自作の写真パネルにして、班別意見交流の話し合いの題材にする」というアイデアに基づいて進める。 意見交流の最初にはアイスクレイキングの時間を取り、下級生の意見が出やすい雰囲気づくりを心がける。	ネットをめぐる中高生が加害・被害にあっている現状を、講師自身や講師の家族の体験談を交えて説明。 特にフィッシング被害の具体的な手口やパスワード設定時の注意事項について実際の画面をもとに説明。 警察庁の性被害防止啓発リーフレットを保護者配布・各教室掲示。 生徒は学習会後に感想を書く。

